

指導資料



鹿児島県総合教育センター

図工・美術 第39号

—中・特別支援学校対象—

平成24年10月発行

表現の幅を広げる映像メディアの活用

「映像メディア」とは、広い意味では視覚情報にかかわる媒体の総称であるが、中学校学習指導要領においては、「写真、ビデオ、コンピュータ等」と捉えられている。映像メディアは、描画力などの個人的な表現の技能の差を埋めることが比較的安易な媒体であり、発想や構想したことをそのまま生かして静止画や動画作品として表現することが可能である。また、手づくりによる作品のアイデアを練ったり、資料として活用したりするなど、発想や構想の場面でも力を発揮し、発表や説明を支援する手段にもなる媒体である。また、これからの時代を生きる生徒にとって、触れる機会が最も多い表現手段であり、他の作品制作においても、表現の幅に大きな影響を与えるものだろうと考える。

そこで本稿では、表現の幅を広げる映像メディアの活用と、その指導例について述べる。

1 映像メディアの種類

授業において効果的な活用が想定される映像メディアは次のとおりである。

(1) 写真

写真は、表現しようとする対象の一瞬の様子を捉えるという特徴がある。被写体に向けてシャッターを押すだけの

簡便な撮影方法から、シャッター速度や絞りの効果などを考えて撮影する難易度の高い撮影方法まで、取扱いの幅が広い。作品例としては、単写真や組写真などがある。また、撮影機器としては、フィルムカメラとデジタルカメラに分類できる。

(2) ビデオ

ビデオは、時間の経過に伴う被写体の動きや変化を表現できる。また、編集することで作者の意図をより効果的に伝えられる。作品例としては、短編映画やアニメーション等が挙げられる。

(3) コンピュータ

写真やビデオ作品の加工や編集、それらを統合した更に新しい表現を創造することができる。また、発想や構想段階でシミュレーションを行うことや、完成した作品を見せたり説明したりするプレゼンテーションにも活用できる。

2 映像メディア活用の課題と留意点

(1) 年間指導計画の作成

映像メディアに関する年間指導計画の作成に当たっては、他の内容と同様に3年間の系統性に留意する必要がある。映

像メディア機器の取扱いの簡便さや時間配分などを考慮し、各学年で1題材は計画的に実施していきたい。また、生徒の機器の操作能力や表現に関する実態把握にも努め、他教科や小学校での活用経験などを的確に把握しておくことが大切である。

(2) 題材の設定

題材としては、伝えたい内容や表したい内容を、他者と交流しながら表現を模索することができるようなものや、生徒が自らの課題に対して積極的に関わり表現することで、創造活動の喜びや楽しさを体感することができるものが望ましい。

また、手描きによって表現した方がよいと判断される題材を安易に映像メディアで表現することは避けるべきである。

(3) 機材の確保

映像メディアによる表現では、生徒が使用する機材の確保が困難であり、それが授業への導入の妨げとなっている場合もある。機材の整備については、担当教師の計画的な努力が求められる。なお、暫定的な対処としては近隣校や関係機関からの一時的な借用なども考えられる。

(4) 指導体制の工夫

映像メディアによる表現は、指導者にも機器の操作リテラシー等の基本的な知識や技能が求められる場合がある。このような場合には、必要に応じて他教科の教員や外部講師による支援が得られる体制を整備しておく必要がある。支援者と共同で授業を進める過程を通して、幅広い生徒の表現を保障するとともに、指導

者のスキルアップを図ることができる。

(5) 指導形態の工夫

映像メディアによる表現の特徴から総合的に判断すると、グループによる活動が中心になることが予想される。グループ活動では、個々の生徒の活動の様子を見落とさないように、必要な観点で評価規準を設定し、ワークシートの工夫や観察の場の設定など、具体的な評価と指導の手立てを準備して臨みたい。

3 指導例(鹿児島市立吉田南中学校の実践を基に作成)

(1) 題材名「写真による表現～友だちを撮ろう～」(中学校第2学年)

(2) 使用する映像メディア(デジタルカメラ)の特徴

デジタルカメラは、撮影結果を付属のモニターで確認できるため、試行錯誤が容易で、よりよい作品づくりができる。また、ケーブルでテレビ等と接続することで作品を簡単に他者に見せることができる。それにより、生徒の意識を見ること見せることに向けやすい。さらに、撮影経費が少ないなどが挙げられる。これらのメリットを生かすことで、生徒の主体的な創造活動が期待できる機器である。

(3) 題材の学習目標

ア 写真を用いた表現に興味・関心をもつことができる。

イ グループで他者と意見交換しながら主題を生み出し、豊かに発想したり、構想を練ったりすることができる。

ウ 作品に対する思いや考えを説明したり、互いの表現のよさを鑑賞したりして、作者の心情や表現の工夫を味わうことができる。

(4) 指導計画 (表 1)

映像メディアによる表現には、創造活動が機器の操作だけに終始したり、発想や構想段階の思考が十分に練られないままの作品に完結したりして、美術科の本来の目標が達成できていないケースも見

られる。そこで、各学年の目標や内容への位置付けや、育てたい資質や能力を明確にし、それを達成するための手立てを準備して指導に当たる必要がある。この指導計画では、写真による表現を指導内容の「A表現」(1)と「B鑑賞」に位置付けている。また、撮影に必要な技能については、コンパクトデジタルカメラの簡便さを考慮し「A表現」(3)の内容は軽く扱うようにしている。

表 1 指導計画「写真による表現～友だちを撮ろう～」(全4時間)

時	指導の流れ	指導のポイント
1	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品(人物写真, 風景写真, 鉄道写真等)を見て, 作品から受けた印象を話し合わせる。 「〇〇な仲間たち」というテーマで, 人物写真を撮影することを説明し, 学習課題を把握させる。 コンパクトデジタルカメラやノートパソコンの基本的な操作方法を説明する。 グループ編成を行い, 自分以外の班員を取めた集合写真の試し撮りをさせる(写真1)。 撮影した全ての画像をノートパソコンに保存させる。 	<p>美術科の題材として写真を取扱うのは初めてなので, 生徒が日頃から接しているような写真を取り上げ, その表現力について話し合わせた。</p> <p>本題材では, 発想や構想の能力を育てることに重点を置くことから, シャッター速度や絞り等には触れず, 構図を決めてシャッターを押すという活動に専念させるようにした。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 前時に撮影した作品の中から1点を選びプリントアウトさせる。 自分の思いを表現した写真を撮影するための視点として, 構図, 表情, 光の三点を知らせ, それに基づき助言を与える。 グループ内で個々の作品について批評し合い, 主題に基づいて最終的な作品づくりの構想を練り直させる。 ワークシートに試し撮りの作品を貼付させ, 個々の改善点をまとめさせる。 	<p>感想や意見の交流を焦点化させるために, 表現の際に気を付けさせるポイントを, 構図, 表情, 光の三点に絞り込み, 「視点」として提示した。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 前時の構想を基に, 相互に最終作品の撮影をさせる。 撮影した画像をノートパソコンに保存させ, グループで話し合いながら, 1人1作品を選定させる(写真2)。 ワークシートに最終作品を貼付させ, 改善できた点や制作後の感想等を記入させる。 	<p>グループを中心とした創造活動や言語活動を展開することで個々の生徒が写真を用いて表現したいことや感想などを交流する場面を多く設定した。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> グループから1作品を選出し, 作品発表を行い, それぞれの作品について三つの視点(構図, 表情, 光)に基づいて相互評価させる。 テレビ会議システムにより職業カメラマンから各作品のよさや美しさについての講評を聞かせる。 全員の作品を鑑賞させる。 学習を振り返り, 自己評価をさせる。 	<p>外部講師として東京在住の職業カメラマンにテレビ会議で参加してもらい, 写真による表現のよさについて考えさせるようにした。</p>



写真 1

視点

構図
表情
光



写真 2

表2 第4時の授業展開

過程	時間	形態	主な学習活動	指導上の留意点	機器活用のポイント
導入	5分	一斉	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習目標を確認する。	・ 試し撮りの作品を提示しながら具体的な改善点について発表させる。 ・ 学習目標をワークシートに記入させる。	前時では、4人グループで1台のデジタルカメラを使用し、相互にモデルになりながら、個々の生徒が「〇〇な仲間たち」というテーマで自分の作品を撮影している。
	作品発表会を開き、互いの作品のよさを見つけよう。				
展開	5分	グループ	3 各グループから作品1点を選出し、発表会の準備を行う。	・ 事前に写真をプリントアウトしたものを配布する。 ・ 視点(構図, 表情, 光)を基にした話し合いをさせ、作品を選出させる。	制作において、グループでの活動が中心となるので、個々の生徒の学習状況の見取りが疎かにならないよう、展開の各所でワークシートを活用する。
	3分	一斉	4 職業カメラマンから自己紹介と前時までの取組についての感想を聞く。	・ テレビ会議システムを利用して職業カメラマンの紹介をする。 ・ 職業カメラマンには作品発表会の様子をテレビ会議で参観してもらう。	【機材等の準備：各グループ】 ・ デジタルカメラ(1台) ・ ノートパソコン(1台) 【機材等の準備：全体】 ・ 電子黒板(1台) ・ テレビ会議システム(1台) ・ ノートパソコン(1台)
	21分	一斉	5 作品発表を行う。 ○ 撮影者が電子黒板に作品を提示する。 ○ 1班あたり3分間で発表する。 ○ 聞き手はワークシートに相互評価を記入する。	・ 次の3項目を柱にして発表させる。 ① 作品テーマ(〇〇な仲間たち)の捉え方 ② 視点(構図, 表情, 光)を基に改善できた点 ③ グループで話し合われた内容	外部講師として職業カメラマンを依頼した。遠方のためテレビ会議で参加してもらった。カメラマンには、子どもが撮影した写真のデータを、識別のための番号を付けて電子メールで事前に送信しておいた。
	6分	一斉	6 職業カメラマンから作品の批評を聞く。	・ 高度な技術には触れず、生徒の表現意図に沿った批評をしてもらうよう、事前に依頼しておく。	職業カメラマンとは事前に打合せを行い、批評の視点を構図, 表情, 光に絞らんでもらうようにした。また、子どもの改善の工夫を肯定的に捉えるように依頼し、制作への意欲付けになるように配慮した。
	5分	一斉	7 疑問に思うことや興味をもったことを職業カメラマンに質問する。	・ 学習内容だけでなく職業カメラマンという職業に関しても質問を受ける。	
まとめ	5分	個別	8 学習を振り返り、自己評価を行う。	・ 感想や自己評価を記入させる(ワークシート)。	

(5) 一単位時間の展開の例 (第4時)

第4時の展開は表2のとおりである。テレビ会議システムを活用して、外部講師として職業カメラマンに講評を依頼し、生徒の鑑賞活動の充実と表現に対する関心・意欲の向上を図るとともに、言語活動の充実を図るように工夫している。

また、人材確保においては、近隣の写真館の技師等に依頼する方法も考えられる。その際には、教科のねらいを確実に達成するために、指導のねらいや内容等についての十分な打合せを行う必要がある。

これからの時代を生きる生徒にとって、

映像と作者の思いの関係を考えたり、表現のために工夫したりする体験は、ますます重要な意義をもってくる。美術教師として映像メディアに対して、教科の目標をしっかりと見据えながら、積極的にかかわってもらいたい。

—参考文献—

- 中学校学習指導要領解説 美術編 (H20) 文部科学省
- マルチメディアで広げる美術の授業 新関伸也,人見和宏 著 2003年 明治図書

(教科教育研修課)